

就労支援について

～「高学歴で自閉症スペクトラムのある相談者への就労支援を中心に置いた関係機関の連携のあり方」より～



残暑厳しい中にも稲穂が黄色く色づき始めた 8 月 17 日 (木) に、今回の研究会が開催されました。テーマは「就労支援について～『高学歴で自閉症スペクトラムのある相談者への就労支援を中心に置いた関係機関の連携のあり方』より～」で、平成 28 年度に北九州市障害者自立支援協議会地域ネットワーク部会 就労支援検討会 (以下、検討会) で作成された報告書を元に進められました。

まず参加者の皆さんに報告書を読み込んで頂く時間を 15 分程度取った後に、今回報告書のテーマに沿った対象者の説明、協議の経過等について部会の事務局であり今回の進行を務めた障害者基幹相談支援センター 柳沢 享センター長より説明を行いました。

“自閉症スペクトラムのある方で、IQ が高く高学歴 (報告書における「高学歴」の定義は普通高校、専門学校、大学卒業程度) であり、特定の事柄に極めて、もしくは一定の高い能力を発揮できるが、対人関係のコミュニケーション力や、社会性・モラルが低い” 人で、仕事には就いたものの離職を余儀なくされた方が報告書の対象者で、「この方たちは“対人関係に問題があり、どうしたらいいかわからない。相談に訪れようと思っても、相談窓口が限られている。”そして、障害の受容ができていない人にとっては、“障害者”と名称に付いている相談窓口は抵抗があるが、そこにしか行きようがない” 時もある」とのことでした。



検討会委員の方にご感想を頂きました。株式会社リタリコ 就労移行支援事業所リタリコワークス北九州 エリアトレーナー 小鉢 朋己さんからは、「関係機関の構築が非常に重要であり、本人にとって不安が安心に変わるように関係機関と密に連携と取って行きたい。」とのお話でした。発達障害者支援センターつばさ 相談員 金光 律子さんからは、「今回委員として参加して、個人の就労支援について振り返るいい機会になった。今後連携していくうえでも報告書を参考にして行きたい。」とのお話がありました。行政の立場として、北九州市保健福祉局障害者支援課 障害者相談支援係 木村係長からも「行政と関係機関の連携の重要性と、初期アセスメントの重要性等、相談支援を進めていく上で基本的な考え方の重要性が改めてわかった」とのお話でした。

参加者からの意見として当事者の家族からは「発達障害に関して、まずはここに行けばいいという一次的な相談窓口があればいい」とのご意見がありました。

当事者本人からは「親に連れられて行ったところで障害を認めることは出来ず、認める状態に行くにはほとんどまでいかなないと認めることが出来なかった。タイミングと環境が一番大事で、本人の意志が揃わないと変わらない。本人が支援研究会等に来て話を聞くことが、ある意味障害受容の近道ではないのだろうか」とのご意見も頂き、家族の意見だけでなく、本人の意見を聴くことができたことは大変貴重でした。

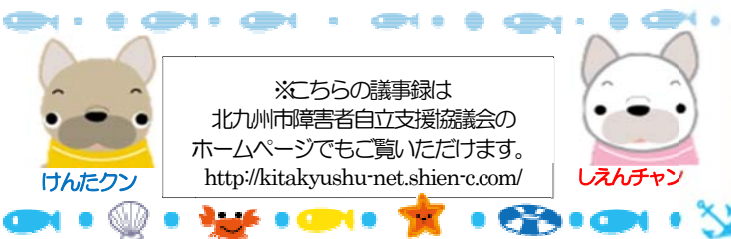
また「担当者レベルであるが、発達障害のある方に対しての相談を受けるので、ハローワークにも声掛けして欲しい」とのご意見がありました。検討会委員の中にハローワークが入っていないのですが、「今後一般企業への啓発をハローワークとも一緒に考えていき、できるだけ障害者雇用を広げていければ。」とのことでした。

課題は、相談する人が“障害施策の中で何を求めているのか”“如何に引き出すか”で、就職活動するにあたり、障害をオープン (障害開示) にするのか、クローズ (障害非開示) するかどうか、メリット・デメリット自己選択を含め、障害者手帳を取得しての就職を良しとしているのか?“当事者家族は立場弱く、手帳取得に関して言われるがままに取得する場合があるので、関係者が立ち止まって考えてみる必要がある”ということが強調されていました。

全 4 回の部会を開催して、見えてきたことわかってきたこととしては、“すべてのケースで見られた障害の受け止めが難しい方に対しての<揺らぎ>に丁寧につきあうこと”が基本で、“相談に来た最初から障害の武器 (障害福祉サービス関連情報) 提示はやめましょう”とのことでした。

この検討会は平成 28 年度の取り組みでありましたが、また第 2 段 3 段と回を重ねみなさんと議論を重ねて行きたいと思えます。

尚、本日の参加者は 74 名。新規の方は 30 名でした。ありがとうございました。



※こちらの議事録は
北九州市障害者自立支援協議会の
ホームページでもご覧いただけます。
<http://kitakyushu-net.shien-c.com/>

